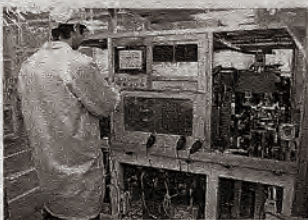


LED印刷機 画質を向上

アルファードesign



アルファードesignが開発した半導体実装装置

産業機械のアルファードesign(東御市、千葉昇社長)は発光ダイオード(LED)プリンター向けの半導体実装装置を開発した。プリンターのヘッド部分に用いる細長い基板に高い精度でICチップを搭載する技術を開発。印刷画質の向上を売り物に採用を働き掛ける。日系企業の不振で半導体関連は厳しい状況が続く中、今後の伸びが見込めるLEDプリンターの関連市場を開拓する。

高精度の半導体実装装置 市場開拓、デジカメも的

開発した「高精度タイププリンター HSD B1-2

「0」は半導体を組み立てる製造装置で、来年1月以降に販売を始める。LEDプリンターのヘッド部分に使う基板は幅10mm、長さ300mmなど細長い形状をしているのが特徴。印刷した画像がゆがまないよう、製造工程ではこの細長い基板に幅1mm以下、長さが8.25mm程度のICチップを正確に並べていく必要がある。

同社は半導体メーカーと組み、ウエハからICチップを切り取り、基板上に接着剤を塗布してチップを搭載するという一連の動作を行うHSD B1-2を開発。搭載精度を上下2軸で制御する

独自の構造や低振動に抑える仕組みなどで、並べたICチップのずれを他社の従来製品に比べ4分の1の0.0005mm以下に抑えた。アルファードesignによると業界最高レベルの精度という。

LEDプリンターはレーザープリンターに比べ小型化が可能。新たな印刷方式として注目を集め、市場拡大が見込める。装置はデジタルカメラやスキヤナー、自動車のセンサー類の機能向上にも対応でき、こうした国内外の市場も開拓する。販売価格

佐久市はJTBグループなどと組み、星空やイルミネーションを観賞するツアーを来年1月に実施する。LOOM実行委員会は今部心では見られない美しい年初めて市内で大規模なイ

は調整中だが、初年度20期の単体売上高は22億円だった。産業機械をオーケーメードする事業を専らしている。

信州ブランドでシンポ

県など来月 企業の事例発表

長野県と県デザイン振興協会などは来年1月、県ブランド発信に関する大規模なシンポジウムを開催する。県内企業のブランドづくりの事例を発表や、デザインコンペの表彰式を実施。県のブランド2012の発表で開く。信州ブランドアワード2012の発表や、ブランド戦略に関する講演、阿部守一知事らに参加する「県民皆で考

「信州ブランドフォーラム2012」と信州ブランドシンポジウム」を2013年1月18日、長野市のホクト文化ホール(長野県県民文化会館)で開催。県内12年度内に「信州ブランド戦略」を策定する。その中で自然と向き合い県民が作り上げる「信州主義」をブランドコンセプトに掲げ、

佐久の星空 見に来て

JTB、来月ツアーと組み合わせ

作るケーキを賞味したりというイベントも組み合わせる。現地集合のほか東京発着のプランも用意し、JTB中部上田支店(上田市)が募集する。

星空が楽しめるとして、首ルミネーションを実施中。

佐久市は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の観測所もある。市は「澄んだ空